

## 令和5年度第1回城東区教育会議 議事要旨

日時	令和5年8月9日(水) 19時～20時30分	場所	城東区役所1階 101・102・103 会議室
出席者	教育会議委員、区内小中学校幹事校長 城東区長、城東区副区長、子育て教育担当課長、子育て教育担当課長代理		
内 容			
報 告	<p>[主な意見] ○:委員、●:区役所、オブザーバ</p> <p><b>【学校園の働き方改革について】</b></p> <p>○事務負担の軽減の観点から、例えば休暇の申請等内部的な事務部分の負担も大きいと思うが、何か工夫はなされているのか。</p> <p>⇒●申請については PC を用いたシステム等が導入されている。それ以外でも、スクールサポートスタッフやワークライフバランス推進員といった外部人材を活用することにより、教員自身が行わなくてもよい事務、例えば配布物の作成等の負担軽減に努めている。</p> <p>○世の中の流れとして働き方改革は推進すべきだが、だからといってなくしてもらいたくない部分もある。例えば家庭訪問は子どもたちの家庭環境を確認するために重要だと思うし、土曜授業では保護者が直接学校での様子を確認できる。修学旅行についても、今は一泊二日が普通となっているようだが、我々の子どもの学校では二泊三日であり、それにより得難い経験もあるかと思うので、改革を進めなければならない一方、そういった部分は考えてもらいたい。保護者の立場としては、学級だよりやお知らせ等紙ベースの通知については、すべてアプリで送付いただければ事足りるので、負担軽減に努めてもらいたい。</p> <p>○周知チラシ等の内容では、ともすれば地域での行事に教員は参加しないような印象を持たれる可能性もある。学校としても地域との交流は欠かすことはできないので、誤解を受けないようにする必要がある。</p> <p>○現状、教員をめざす学生も、教員の負担が大きいということで不安に思っている。中学生や高校生が教員をめざすにあたって自分が教員になる頃には状況が改善していると思ってもらえるよう発信することが必要であり、こういった取組みはぜひ強く進めてもらいたい。</p>		
議 題	<p><b>【城東区における不登校対策支援事業の拡充について】</b></p> <p>●中学校では5%ほどの生徒が不登校の状況と認識している。前年度スクールサポートルーム(SSR)を整備された学校に状況を確認すると、SSRのおかげで来られるようになった生徒もいるとのことで、不登校にはさまざまな理由があるものの、選択肢の一つとして有効だと考えている。JOTO ふらっと教室についても、スタッフを家庭等に派遣する訪問型の導入により、送迎や学習面の指導が保護者のサポートにもつながっているものと考えている。</p> <p>●JOTO ふらっと教室については、子ども・子育てプラザやトライ京橋教室などの学校外の居場所では、小学生には校区外であり通所が難しい面があったが、家庭への訪問による支援など柔軟に対応いただいたので、当校でも活用の事例が出てきている。今後学校への訪問の拡大も検討されているとのことでさらなる活用につながると考えている SSR については、部屋の確保や人員の配置が難しい学校もあるため、効果があるとは思いますが課題が</p>		

大きいというのが現状。

○利用状況の数字(生徒数)は一覧にまとめられているが、不登校が解消されたといった実績はわかるのか。最終的にはそこにつながるべきだと思う。⇒●現時点では、まず「学校内の居場所」の運用状況ということで各学校からの報告に基づいて、生徒数など利用状況を把握しているところ。各校からの報告はこういったまとめ方にしているが、それぞれ各生徒の実情に応じて工夫しながら居場所として活用されており、その効果については個々のケース事例として把握し、紹介していくこととなると思われる。

○統計的に数字として改善の実績をまとめることは難しいだろうが、個別の改善事例をこういった場で共有いただければ取組みもわかりやすいのではないか。

○利用状況の数字だけを見ても、例えばどれぐらい不登校の人数がいるのかといった分母が分からない以上どれぐらいの成果があるのかを認識するのは難しい。

⇒●利用実績の取りまとめや成果把握については、学校の大きな負担につながらないように留意しながら、今後も引き続き検討していく。

○不登校の原因として、そもそも学校に行く会いたくない教師や友人がいるといった事例もあるだろう。外部の教室やフリースクールという選択肢もある中で、あえて学校内に SSR を作るという考えに至った理由は。

⇒●これまでも学校ではそれぞれの工夫で保健室をはじめ、教室以外の居場所づくりに努めており、また行政の支援としても学校外の JOTO ふらっと教室やフリースクールを紹介していたが、「学校には行きたいが、いきなり教室に行くのは抵抗がある」といった生徒、また、登校はしているものの、何らかの理由で教室にいたくないといった生徒について、他の生徒とできるだけ顔を合わさずに入れる場所を選んで SSR を開設し、少しずつ登校ができるようになった、また不登校の防止につながったといった報告を聞いており、区内全校で推進する方向である。

○学校協議会に参加していた際の意見として、教室のざわつきによりいづらいい生徒もいるとのことでそういった生徒にとっては効果的なのだと感じた。また、さまざまな生徒や保護者が不登校にあたって SSR の利用等で教員にお願いするなど教員のストレスもあるかと思うが、そういった部分の教員のサポートはあるのか。

⇒●例えば、区にはスクールソーシャルワーカーが配置されており、各学校に定期的に訪問し、課題のある生徒への対応などについて教員から直接相談を受けたり、学校からの相談により可能な範囲であれば JOTO ふらっと教室を紹介し、委託事業者へのつなぎなどの対応も行っている。

○こういった支援があることを困っている保護者にどのように届けるかも課題、保護者としては一人で問題を抱えている場合も多い。

⇒●不登校の状況は学校で把握できるので、その中で学校と保護者で十分にコミュニケーションが取れていない家庭等については、保護者の了解を得て、学校からの依頼に基づき、こどもサポートネット事業などで必要な支援につなげていく。

#### 【教育環境の充実に向けた区内学校園の取組み事例の集約発信について】

○保護者になって、また PTA として関わるようになってから、初めてこういった区の取組みを知ったため、情報発信の取組みは必要だと思う。保護者目線でいうと、「広報誌」掲載もよ

	<p>いが、保護者は意外に「広報誌」を読んでいないのではと思う。子どもから直接言われることの方が関心も高まるので、子どもが印象に残っている学校の取組みの中から「実は城東区ではこんなことをやっている」ということを学校から発信してもらえるといろいろな方に伝わらと思うので考慮いただければと思う。地域の町会長会議などでも話題になれば地域の方も協力的になってくれるのでは。</p> <p>また、広報誌の中で最近マンガにより事業紹介をされているページがあったが、こういうものも読者の目には止まりやすいと思う。ビジュアルでの説明は大変わかりやすく、より伝わりやすいのでは。</p> <p>○情報を広報誌からどれだけの方が見ているかという、見ている層が限られている。情報発信では誰に向けての発信とするのかをはっきりさせるべきで、子ども向けと考えてもよいかもしれない。子どもたちも情報ソースとしてはInstagramやTIKTOK、TwitterなどSNSがメインだと思うので、そういったところも検討していただければと思う。</p>
<p>資 料</p>	<p>【資料1】第2期「学校園における働き方改革推進プラン」の概要</p> <p>【資料2】学校園における働き方改革 地域・保護者向け周知チラシ</p> <p>【資料3】ふれあい城東8月号</p> <p>【資料4】城東区における不登校対策事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校児童生徒支援事業(JOTO ふらっと教室)の支援状況について</li> <li>・スクールサポートルーム(SSR)の取組み状況について</li> </ul> <p>【資料5】教育環境の充実に向けた区内学校園の取組み事例の集約発信について(たたき台)</p>